



石川医報の「読者からの声」は、会員がいろいろな意見を交換する場です。
ぜひ、皆様からのご意見、ご投稿をお待ちしております。
(編集部より)

女性医師の窓

子供の成長

金沢大学附属病院 病理診断科 吉村 かおり

平日は、朝から夕方まで病理医として勉強させていただいている毎日なのですが、白衣を脱いで病院を一步出れば、お母さんとしての日常が始まります。我が家には3歳と1歳の二人の男の子がおり、夫はもちろんのこと、周りの方々の協力もあり、ふたりとも元気に育ってくれています。元気がありすぎて、ものを壊したり、おもちゃを取り合ってケンカすることもしばしばです。子供たちは日々成長しているのですが、毎日接しているとなかなか小さな成長には気づけないことも多く、保育園の先生方に教えていただいて気づくことも多々あります。そんな中で、先日長男の成長を感じた出来事があったので、紹介させていただきます。

長男が通っている保育園では、季節ごとに催し物があり、親子でいつも楽しみにしています。7月の夏祭り前には、長男は家で炭坑節を歌いながら練習していたので、本番を楽しみにしていました。ところが、当日の長男はやぐらの周りを見つめて無表情のままゆっくり歩くのみ……。ついには立ち止まり、固まってしまいました。どうやら私の内弁慶な性格をしっかりと受け継いでしまったようでした。月日は流れ、次のイベントは9月の運動会。今回はクラスみんなでダンスをすることになっており、夏祭り前と同様に家でも歌いながら振り付けを練習していました。しかし、私の気持ちは夏祭り前とは異なっており、やる気満々でダンスの練習をする長男を尻目に、『本番はどうせ動画を撮っても静止画になってしまうだろう。ま、参加することに意義があるよね。』と、期待値はかなり下がっていました。そして迎えた運動会当日。そこにはいい意味で予想を裏切る長男の姿がありました。先生に手を引かれ、クラスみんなとホールの真ん中に登場。音楽が鳴り始めると、リズムにのって手をたたきながら足踏みし、クラス一番の大きな声で歌いながら見慣れたダンスを始めました。「き、き、きのこ！」とホールに響き渡る、音程がちょっとはずれたしゃがれた声。きのこになりきり、上下に弾む長男。その調子のまま、ついには1曲まるまる踊り終えました。これには隣にいた夫とともにびっくり。ダンスを終えた長男を退場口まで迎えに行き、「上手に踊れたね！」と声をかけると、少し照れた表情を浮かべながらも、でも得意気な表情で「うん！」と言ひ、一回り大きくなったように感じました。帰り際には、お友達のお母さんたちにも「上手だったね！」と声をかけてもらひ、本人のみならず、全く期待していなかった私まで鼻高々で帰路につきました。

大勢の人の前でダンスが踊れるようになり、度胸がついたもんだと感心していたのですが、この話には後日談があり、内弁慶な性格を見抜いていた保育園の先生たちは、今度こそはダンスを披露できるようにと、運動会当日まで気持ちを盛り上げるようカレンダーを作ったり、またダンスが上手な女の子の隣に並ばせてくれたりと、いろいろな工夫をしてくれていたそうです。改めて、周りの方々のおかげで、親も子も成長させてもらっているんだなと感じました。